2. 羽村市の概要

● 位置・地勢



羽村市は、都心部から西に約45km、武蔵野台地の一角、多摩川の河岸段丘上に位置しています。

東は瑞穂町、南は福生市・あきる野市、西は青梅市、そして 北は青梅市と瑞穂町に接しており、その広さは、東西に4.23km、 南北に3.27km、行政面積は9.90kmとなっています。行政面積の 一部約0.417kmを米軍横田基地が占めています。行政面積は、 日本で7番目、都内で3番目に小さい市です。



② 人口・世帯・人口密度(令和3(2021)年1月1日現在)



人口		総数	性別	うち外国人人数	性別
		54705 1	男性 27,662 人	1,472 人	男性 668 人
	54,725 人	女性 27,063 人	女性 804 人		
	○~14歳	6,579 人	(12.0%)	 総数に占める外国人の割合 2.7%	
	15~64歳	33,567 人	(61.3%)	一部数に口の分から	
	65歳以上	14,579 人	(26.6%)		

※端数処理の関係で、合計が100%になりません。

	世帯数	うち外国人世帯数
世帯	25,781 世帯	731 世帯

❸ 沿革



江戸時代

羽村市は、江戸時代まで武蔵野の典型的な農村でありましたが、 承応2(1653)年、4代将軍家綱の時代に羽村を水源として、 玉川兄弟により玉川上水が開削され、活況を呈するようになり ました。

江戸幕府の役所(陣屋)が設けられ、多摩川の水が江戸まで送られるようになると、江戸との交流も頻繁となり、玉川上水の維持・管理や改修工事の請負等で経済的にも活性化していきました。

明治時代

明治22 (1889) 年に市町村制が施行され、当時の羽村、五 ノ神村、川崎村が合併し、現在の羽村市の前身である「西多摩 村」(人口3,132人、戸数501) が誕生しました。明治26 (1893) 年には、神奈川県から東京府(現東京都) に移管されました。

大正· 昭和時代

西多摩村は、畑作を中心とした農村でしたが、明治末期から大正、昭和初期に養蚕業が著しく発展し、その名を全国に高めました。

戦後は、首都圏近郊農業への模索が行われる中で、人口も増加していき、昭和31(1956)年に町制を施行し、「羽村町」 (人口10,104人、1,886世帯)が誕生しました。



▲玉川兄弟像



▲昭和の街並み

昭和時代

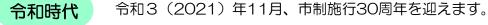
その後、昭和37(1962)年に首都圏整備法による市街地開発区域に指定され、土地区画整理事業による都市基盤整備を進めるとともに、工場立地を促進しました。

工場の進出に伴い、市街地が整備され、人口も急増し、現在のような工業都市と住宅都市が調和した職住近接の近代都市として活況を呈していきました。

平成時代

平成3(1991)年11月1日に市制を施行し、現在の「羽村市」(人口53,381人、19,386世帯)が誕生しました。

福祉や教育の分野を始め、「市」として新たに担うこととなった役割を着実に果たし、自立した都市としての基礎を築きあげ、 平成23(2011)年には、市制施行20周年を迎えました。



▲日野自動車羽村工場の様子



▲生涯学習の拠点「生涯学習センターゆとろぎ」